

令和6年度食料・農業・農村白書についての意見（4/17 企画部会）

日本生活協同組合連合会

二村 睦子

1. 昨夏の米の品薄事態について（本文 P138-）

コラムとして一定分量を割いて掲載することに賛成します。今般の事態、そして備蓄米活用等の対応は前例のない事案であり、将来的に記録を残す点からも、正確かつ詳細に記録を残すことが必要であると考えます。

米の需給の正確かつ詳細な把握と情報発信が重要と考えます。2024年10月30日の食糧部会で報告された「今般の端境期の米の需給と供給の動向の背景・原因を踏まえた今後の対応について」はこの時点での詳細な分析として貴重な情報です。また、「米に関するマンズリーレポート」はさらに周知に力を入れていただきたいと思います。これらの情報についてこのコラムに記載するか、掲載ページへのリンクを掲載するなどご検討ください。

2. 政府備蓄米の保有量について（本文 P411）

「不測時における食料安定供給のための備えの強化」として P411 に令和6年6月末時点の備蓄米の保有量が記載されていますが、現在備蓄米は断続的に市場への流通がなされており、その点を反映させた記述が必要と考えます。あわせて、備蓄米の本来の目的を踏まえ、保有すべき数値を記載すべきではないでしょうか。

3. 輸出拡大の施策について（本文 P210-）

輸出拡大の方針について大きく記載されていますが、輸出についてはアメリカによる相互関税の動向等もあり、基本計画策定時よりもリスクが高まっています。国内の食料不足や価格高騰の中で輸出を優先させることとならないよう、「海外から稼ぐ力を強化することで、農業生産の基盤、食品産業の事業基盤等の食料供給能力を確保する」という輸出の目的を明記し、国内の需要や在庫状況を踏まえた上で輸出を進めるという内容の記載の検討をお願いします。

4. 価格形成について（概要 P50）

各品目の価格の推移がグラフ等で掲載されていますが、直近はエネルギー価格や為替などの変動が大きく、今後もその傾向は見込まれます。そのため、単年ではなく、中長期に価格推移を把握できる資料（例えば本文 P244 の図表 4-4-2 の消費者物価指数のグラフ）の方が適切ではないかと思えます。

米の価格については、消費者が手にする店頭での価格を示す方がより適切と考えます。

以上